

小説・戯曲・映画 終戦直後の世界的話題作！

八月十五夜の茶屋

とは何だったのか？

陽春姪に、全琉待望の公開決定！！

M・G・M映画 総天然色 シネマスコープ巨篇

マロン・ブランド
グレン・フォード
京マチ子
根上淳
村上三郎子
清川虹子
主演

沖繩青年サキニに扮した
マロン・ブランド



八月十五夜の茶屋

皆んながほめている映画！皆んなが見たがっている映画！

映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏
映画評論家 飯島 正氏

電話 712番 国映館 本日より前売券発賣開始 大人券 50円 国映館・新星堂書店

1957年3月18日（月）沖縄タイムス社に掲載された広告（STAR THEATERS/沖縄タイムス社提供）

1954年4月21日、米軍施設内。瑞慶覧劇場にて戯曲八月十五夜の茶屋が上演されるも、一部から沖縄人差別の声が上がり、那覇で予定されていた公演は見送られた。



1954年4月21日 瑞慶覧劇場：琉球放送提供

あらまし 舞台は終戦直後の沖縄の架空の村。沖縄に進駐して民主主義の思想を広めようとするアメリカ軍と沖縄住民との交流をユーモラスに描いた喜劇。

経緯
小説 1951年 ヴァーン・スナイダー原作「八月十五夜の茶屋」出版
戯曲 1952年 ジョン・パトリック脚色で戯曲化
ブロードウェイでは1000回を超える記録的ヒット
1954年 ピューリッツァ賞戯曲部門受賞
映画化 1956年 映画化(MGM映画)マロン・ブランド、京マチ子主演

■予約方法
WEB受付▶ QRコードより申込フォームへ
※詳細・申込みは、なは一とWEBサイトにてご確認ください。なお、申込みには、「会員登録」が必要です。
電話受付▶ 098-861-7810
または、なは一と窓口にて
※受付時間/10:00~19:00
※第1・第3月曜日の休館日を除く
■お問合せ



2024年5月26日(日) 13:00~17:00 開場12:30

入場無料
(定員150名・要予約)

那覇文化芸術劇場なは一と 大スタジオ

※会場には靴を脱いでお入りいただきますようお願いいたします。※自由席、定員になり次第締切となります。※車椅子席には限りがございます。ご利用希望の方は事前になは一とまでご連絡ください。

第1部 映画(DVD) 上映(123分) 「八月十五夜の茶屋」字幕翻訳 岡田壯平

第2部 シンポジウム 「八月十五夜の茶屋」とは何だったのか？

[パネリスト] 大城 貞俊(作家)、梓澤 登(翻訳家)、宮城 晴美(女性史家)
山里 孫存(映画監督)、多嘉良 カナ(舞踏家)

[コーディネーター] 宮城 さつき(企画者・フリーアナウンサー)

[総合進行] 村上 佳子(那覇文化芸術劇場なは一と)

那覇文化芸術劇場なは一と
沖縄県那覇市久茂地 3丁目 26-27
☎ 098-861-7810 休館日: 第1・第3月曜日
受付時間: 10:00~19:00 (祝日が重なる場合は翌日が休館)
※一般駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
<http://www.nahart.jp>

パネリストプロフィール

1949年大宜味村生まれ。元琉球大学教育学部教授、作家。主な受賞歴に沖縄タイムス芸術選賞(小説部門)大賞、具志川市文学賞、沖縄市戯曲大賞、山之口貌賞、さきがけ文学賞最高賞など。近著に『大城貞俊未発表作品集全4巻』(2023年)がある。

おおしろ さだとし
作家 **大城 貞俊**



大和に対するスタンス、米軍に対するスタンス、うちなんちゅとしてのスタンス。戯曲上演から70年、沖縄の歴史を見つめ直す上でもいい作品

1950年代前半のアメリカ国内の政治状況、その背景に激化する冷戦体制があることも関連させながら、この作品を理解してみたい。

1946年生まれ、埼玉県浦和市(現・さいたま市)出身、2007年から那覇市在住。訳著に『八月十五夜の茶屋』(彩流社)他、『国家機密と良心』(共訳 岩波ブックレット)、『デュイが見た大正期の日本と中国』(論創社)、『ペリー提督日本遠征公式書簡集』(榕樹書林)など。

あずさわのぼる
翻訳者 **梓澤 登**



1949年生まれ。那覇市役所職員として那覇女性史・那覇市史編さんに携わる。1994年から新沖縄県史編集委員会委員として『沖縄県史 女性史』などを担当。那覇市を退職後、琉球大学ほか県内3大学で非常勤講師を勤める。

女性史家
みやぎ はるみ
宮城 晴美



エンターテインメントとして割り切って見ればとても面白い。しかし、映画や戯曲が上演された1950年代は朝鮮戦争も始まり、米兵によるレイプ事件も数多く発生していた。そうした時代性とは切り離せない作品。

民主主義を教えてやろうとする占領者のはずのアメリカ人が、逆に島の民衆の民主主義に巻き込まれ感化されていく。琉球人、うちなんちゅのたくましさ、したたかさに爽快感をおぼえる。

1964年生まれ。平成元年に沖縄テレビ入社以来「じゃかALIVE」「BOOM BOOM」「ひーぷー☆ホップ」など数多くの番組を制作。近年は映画製作にも精力的に取り組み、「ちむぐりさ 菜の花の沖縄日記」(2020)をプロデュースし、「サンマデモクラシー」(2021)を監督した。

映画監督
やまざと まごあり
山里 孫存



映画「八月十五夜の茶屋」で沖縄音楽を担当した作曲家、金井喜久子の姪。6歳の頃より、昭和を代表する沖縄女性民謡歌手・多嘉良カナ(金井喜久子の姉)の養女となり、歌と舞踊の指導を受ける。本映画にも出演した沢村みつ子とはいとこ。現在、多嘉良カナの名前を襲名し、あらゆる流派にも属せず、普遍的な琉球芸能の道を求めて活動する。

舞踏家
たから かな
多嘉良 カナ



辻文化の中で誕生した伝説の民謡歌手、多嘉良カナを母に持つ。「学校建設よりも茶屋を」この映画のメッセージは命どう宝だと母からよく聞かされていた。

コーディネーター
企画者

みやぎ
宮城 さつき



フリーアナウンサー朗読家。元琉球朝日放送アナウンサー。現在はフリーランスにて映画やドキュメンタリー番組のナレーション、舞台朗読(沖縄可否の会)、MCなど声の可能性を信じて活動中。金井喜久子プロジェクト発起人。

差別? プロパガンダ? 植民地主義的? 文化風習への敬愛? 軍政への痛烈な風刺? 沖縄への侮辱? OR 軍政を手玉にとる沖縄人 したたかたくましさ?

応援メッセージ届いています



またよしえいき
芥川賞作家 **又吉 栄喜**

映画「八月十五夜の茶屋」に寄せて
沖縄人通訳「サキニ」(マーロン・ブランド)は愛嬌のある、憎めない笑みを終始浮かべている。後年のゴッドファーザーのマーロン・ブランドは別人ではないかと疑ってしまう。この不可思議な主人公はほかの登場人物にもシチュエーションにも物語自体にも謔々(あいつ)たる雰囲気や漂わせ、観客をどこか夢見心地にする。印象深い風景、風習。風物は「沖縄」をモチーフにしているのだが、ディテールは「沖縄離れ」している。占領、被占領の生々しく写実的な表現はないが、リアリズムを超えた強いメッセージが迫ってくる。「八月十五夜の茶屋」のパラドックスは「今の沖縄の現実」を浮き彫りにする。

プロフィール
1947年沖縄・浦添村(現浦添市)生まれ。琉球大学法文学部史学科卒業。1975年「海は蒼く」新沖縄文学賞佳作。1976年「カーニバル闘牛大会」琉球新報短編小説賞受賞。1977年「ジョージが射殺した猪」九州芸術祭文学賞最優秀賞受賞。1980年「ギンネム屋敷」すばる文学賞受賞。1996年「豚の報い」第114回芥川賞受賞。琉球新報短編小説賞、新沖縄文学賞、うらそえYA文芸賞などの選考委員を務める。